



ごあいさつ

「FPD 関連次世代型技術者養成ユニット」事業は目標を上回る成果をあげ、5年間のプロジェクトを終えようとしています。当大学にとっても、そして地域社会にとっても、地域の社会人技術者教育の大きな一歩となる成果を残すことができました。

本ユニットは文部科学省の平成18年度科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムにおいて、八戸工業大学が「FPD 関連次世代型技術者養成ユニット」を提案し、採択されたものです。

このプログラムは大学が有する個性・特色を活かし、将来的な地域産業の活性化や地域の社会ニーズの解決に向け、地元で活躍し、地域の活性化に貢献し得る人材の育成を行うものです。このため、地域の大学が地域の自治体との連携により、科学技術を活用して地域に貢献する優秀な人材を輩出する「地域の知の拠点」を形成し、地域に必要な人材を創出するシステムを構築するものです。

本ユニットが採択された平成18年度と現在を比較すると、世の中の情勢は大きく様変わりしています。リーマンショックによる世界的な経済危機が地域企業にも影響し、被養成者を送り出している企業も倒産等の深刻な事態にまで及んでいるケースもあります。また、FPD 関連企業も海外にシフトしていく動きが活発で、新規投資での事業拡大による雇用創出が起きにくい状況にあります。このような状況下では、地域企業が下請け的工場体質から自ら開発企画できる企業への変化が求められてきており、まさにこのプログラムの目指す次世代型技術者の必要性が再認識されてきています。

プログラム終了まであとわずかとなりましたが、昨年度までに修了生17名、今年度の修了予定者5名を加え、当初目標とする20名を上回る累計22名の修了生を輩出することになっております。

科学技術振興調整費による支援は今年度で終了となりますが、地域の社会人技術者養成の高等教育機関への要望は依然として強く、青森県と連携を図りながら、県内企業の技術者養成を継続していくことを検討しています。従来とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

FPD 関連次世代型技術者養成ユニット
総括責任者

八戸工業大学 学長 藤田 成隆



ごあいさつ

「八戸工業大学 FPD 関連次世代型技術者養成ユニット」における連携自治体として、御挨拶申し上げます。

本ユニットは、平成 18 年度に文部科学省の科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラムにおいて採択されました。以来、八戸工業大学では、運営体制やカリキュラムの整備等に改善を加えながら、昨年度までに 17 名の修了生を輩出し、現在、本県産業等の最前線で活躍いただいているほか、今年度も 5 名の修了生を予定しているところです。関係者の皆様のこれまでの御尽力に対し、厚くお礼申し上げます。

我が国経済は、景気持直しの動きが一部に見られるものの、産業構造の変化や経済のグローバル化の進展等により依然として厳しい経済状況が続いています。こうした中においては、産学官金の連携を一層密にして地域の産業力を培い、果敢に挑戦していくことが重要であり、特に、経済の発展を支えている「ものづくり」の現場では、優秀な技術・技能を持った意欲ある「人財（人の財）」の重要性がますます高まっています。本ユニットは、FPD 関連の新製品・新技術開発を担う実践的な研究開発型の技術者を養成するなど、重要な役割を担っているものです。

本県では、「人財」の育成を「未来の青森県づくりの礎」と位置づけ、産学官金の協働・連携や地域総ぐるみにより、地域に活力をもたらし、地域経済や地域づくりをけん引するチャレンジ精神と豊かな発想にあふれるリーダーの育成、そしてそのネットワーク化を推進していくこととしています。

本ユニットの実施により、八戸工業大学が培ったノウハウ等を最大限活用し、地域中小企業の将来を担う技術者の育成・確保を行うなど、引き続き、県内企業の成長を支援して参ります。

また、平成 22 年 11 月には、八戸工業大学との間で、連携に関する協定を締結したところであり、今後より一層緊密に協力しながら、地域産業の振興を図ることとしています。

県としては、今後とも、関係機関と連携・協力しながら、「人財」の育成に重点的に取り組み、地域経済の活性化を図って参りますので、関係者の皆様の御支援と御協力をお願いいたします。

FPD 関連次世代型技術者養成ユニット
連携自治体 青森県知事 三村 申吾

CONTENTS

ごあいさつ	1
第1章 FPD関連次世代型技術者養成ユニット概要	5
1.1 地域社会人技術者教育のニーズ	6
1.2 文部科学省からの採択	7
1.3 ユニットの概要	8
1.4 目標とする人材像	10
第2章 カリキュラムの策定と実施	13
2.1 カリキュラムの概要	14
2.2 カリキュラムのスパイラルアップ	18
2.3 履修状況	21
2.4 講師からのメッセージ	24
2.5 シラバス	32
第3章 “知の拠点”化	47
3.1 地域への情報提供 —講演会・シンポジウム—	48
3.2 パネルディスカッション	90
3.3 メーリングリストおよびホームページの整備	102
第4章 PBLゼミナール	105
4.1 PBLゼミナールの進め方	106
4.2 PBLテーマとその後の展開	108
第5章 先端技術研修・FPD関連研究実習	111
5.1 先端技術研修	112
5.2 FPD関連研究実習	118
第6章 修了基準と修了生	127
6.1 入学選抜および修了基準と修了証	128
6.2 修了生メッセージ	134
第7章 活動実績	137
7.1 成果報告	138
7.2 産学官連携モデル	148
7.3 県との連携	151
7.4 アンケート	153

7.5	年度実績一覧	159
7.6	学会発表	203
7.7	広報関係	208
第8章	今後の展望	213
8.1	地域社会人技術者教育への発展	214
8.2	知の拠点形成	214
8.3	地域に根ざす産学官連携	215
8.4	FPD 関連産業から材料・デバイス産業への領域展開	215
付録		218
	実施内容リスト	219
	リーフレット	228